

東北に暮らしてみて、春が来る歓びを初めて実感しました。

**春の高校野球選抜 被災地の星一東陵高校―“気仙沼魂”を発揮するも 初戦敗退**  
**多数の被災地ボランティアの仲間で 3塁側スタンドは満員 被災地に届けと応援**  
選抜高校野球の初日、開会の式典で、大会長の朝比奈豊毎日新聞社長が「被災地の気仙沼市から東陵高校が初出場を果たした」と紹介すると、場内は温かい拍手に包まれた。「東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼市にある東陵高（宮城）が23日、甲子園球場で行われた選抜高校野球大会1回戦に登場した。試合は白鷗大足利高（栃木）に1―9で敗れたものの、球場には大勢の応援団が詰め掛け、最後まで諦めないプレーを続けたナインに大きな声援を送った。

ボランティアを通して被災地と交流を続ける大阪、京都、兵庫各府県の7つの私立高も応援に加わった。大阪市の城星学園高吹奏楽部副部長のYさん（3年）は「全力を尽くす選手に感動した。被災地も思い浮かべ演奏した」と言葉に力を込めた。

野球部OBの千葉県四街道市、会社員Iさん（29）は後輩の踏ん張る姿を見届けに甲子園に駆け付けた。陸前高田市の実家が津波で流出し、祖母を失ったIさんは「序盤に校歌が流れた時は胸が熱くなった。後輩たちの頑張る姿に、自分も前を向こうと思った」と目を赤くしながら決意を新たにした。」

「健闘も実らず敗戦に終わったものの、野球部OB会の関根弘幸会長（45）＝仙台市＝は「最後まで諦めない姿勢を貫いたのは、震災の被災地にとっても意味のあること」と選手らをねぎらった。」

「東陵が白鷗大足利との初戦に臨んだ23日、気仙沼市役所ワントン庁舎大ホールでパブリックビューイング（PV）が行われ、市民らが精いっぱいの声援を送った。

会場では白壁にプロジェクターで縦1.8m、横2.7mの映像を映し出した。約30人が応援に訪れ、東陵の校名が入ったタオルを手に応援した。孫が東陵OBという気仙沼市新町の主婦Oさん（81）は「頑張っていて何とか1勝してほしい」と祈った。

試合は7回裏まで8失点と苦しい展開だったが、8回表に連打で1点を返した。

会場は「この調子で頼むぞ」「次の打者も続いて」と大きな声援に包まれた。敗れはしたものの、最後まで諦めない球児たちの姿勢に温かい拍手が送られた。

気仙沼市常楽の派遣社員Oさん（69）は「結果は残念。でも、賢明なプレーは被災地に勇気を届けてくれた」と健闘をたたえた。

一方、宮城、岩手両県の名産品を集めた第2回「元気！ご当地グルメマーケット」を開催した仮設商店街「南町紫市場」では55型のテレビを設置し、来場者約100人が試合を観戦した。

同商店街の坂本正人副理事長（57）は「球児はよく頑張った。今後は甲子園の常連校になってほしい」と期待を込めた。」（「河北新報」14年3月24日付け）

【「祝 東陵高等学校野球部 甲子園出場おめでとう」の垂れ幕（気仙沼市役所庁舎）】



【テレビ観戦で応援するファン（福幸商店街「南町紫市場」）】

